

第43号 50円

昭和51年7月25日

内容

歴史的転換期に生きる
 大学セミナー・ハウス……………1
 第33回理事会・第20回評議員会…2
 千人会報告……………3
 開館十周年お祝い募金報告…4~6
 大学共同セミナー白書……………7
 第83回大学共同セミナー…………8
 シャーマニズムと青年たち…………9
 館長日記から……………11
 業務通信…10 利用状況…11

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行
 財団法人 大学セミナー・ハウス
 <所在地>
 東京都八王子市下柚木
 (〒192-03)
 電話 0426-76-8511~3
 振替口座 東京 74590番
 <東京事務所>
 東京都中央区日本橋本町3-3
 三井銀行本町支店ビル5階
 電話 東京 (241) 3961
 編集・発行人・飯田宗一郎
 製作 中央公論事業出版

昭和49年度、50年度の二年間にわたり大学共同セミナー委員長を仰せつかり、文字どおり浅学菲才の身であるために、飯田館長、副委員長の宇野重昭、吉田夏彦の両先生および委員の諸先生方に、多大の御迷惑をかけることとなってしまった。重責にもかかわらず、まずはどうやら無事に任期を終えることができたのは、もっぱらこれらの方々の御努力と御協力によるものであり、最初にあつく御礼申し上げます。

ことに昨年度は開館十周年記念に当たり、このときに委員長をとめさせていただいたのは私個人としてはまことに光栄であり、一生の思い出ともなるものであった。そしてまた幸いなことに、昨年度の七回に及ぶ共同セミナーは、いずれ劣らぬ充実した盛況ぶりであり、学生諸君の参加希望を多数お断りせねばならぬ場合も一再ならずあった。うれしい悲鳴とはこのことかと思う。

一口に苦節十年というが、開かれた大学作りは艱難辛苦、初心を貫き通された飯田館長の岩をも溶かす情熱と御苦勞に、最大級の敬意を表したい。その甲斐あって、遠来荘の移築や大学院セミナー館の落成といった施設の拡充も、昨年の喜ばしい大きな変化であった。しかしそれ以上に、これらの物的諸施設に生命力を与える若い人々の気力、活力、知的エネルギーといったものが、近年とみに高

まり、セミナー・ハウスの丘に満ち満ちるようになったことを見逃すことはできない。
 大学紛争の際も、この丘はたしかに「難を逃れ」てきた学生や教師で一杯であった。しかしそれはやむをえぬ「緊急避難」の類いであつたらう。そのことは、大学紛争の直後、ちょうど潮が引いたように一時利用者や共同セミナーの参加者数が減つたことからも明らかである。
 しかし今日この丘にみざる知



歴史的転換期に生きる

大学セミナー・ハウス

東京大学助教授

木村尚三郎

換をとげつつあり、北半球には北アメリカ、西欧(EC)、ソ連、中国の超四大国ないし大陸型経済・経済単位がその巨大な姿を浮かび上がらせようとしている。これらはいずれもわが国にとり、経済的相互依存、政治的相互協力の強化とともに、遠い憧れの地から近くのしかし手強い相手へと変貌し出している。
 わが国の巨大な経済力を、世界もまた必要としていることは確かであるが、しかしながらわが国の

的活力は、大学紛争時とも、また初期の一时的な物珍しさ、あるいは興奮状態とも違う。開かれた大学の理念の火は、今日、まさに日常的な営みのなかで、静かにそして安定的に燃え始めている。異なった大学の学生と教師たち、それには外国人教師や外国人学生、さらには社会人までもが一堂に会し、特別の負い目や緊張もなく、淡々と、そして熱心に勉強し合い、討議し合っている姿を見るのは、感動的でさえある。
 現代世界はいま歴史的に構造転

立場が今後いよいよ国際的に敵しいものとなっていくことも事実である。「北」に切り込み、「南」にサービスするという、今後わが国の生き方として考えられるほとんど唯一の道を歩むためには、自然風土と歴史的伝統に培われた自らの文化特質を見極めることが何よりも不可欠であろう。
 今日における大学セミナー・ハウスの活況は、このような現代的要請に対応しえない、硬直化した現行大学制度に対する鋭いプロテストであるといえよう。すなわち

時勢に合わないカリキュラムの「定食」メニュー、一大学に拘束され、他大学への流動が困難な固定化された大学教員、そして学界から政財界へ、政財界から学界への相互交流により知的刺激と現代的感覚を身につける、自由な生きた学問の欠如など、いわば半身不随に陥っている日本の大学と学問のあり方に対する根源的な批判が、セミナー・ハウスには存在している。
 現代を真剣に生きようとする者であれば誰もが痛切に解明を望むテーマについて、自らの望む教師から指導を受けうる喜び、そして現代日本の苦境とこれに対処しようとする若い頭脳の地についての勉強ぶり、これこそが今日の大学セミナー・ハウスを支えるエネルギーの源泉であると思う。同時に、終始黙々と、いわば「裏方さん」の役割をつとめておられる職員の方々の御身的な奉仕も忘れることはできない。これなくしては、どんな高邁な理想も絵に描いた餅でしかあるまい。
 大学セミナー・ハウスは、最初の十年で基礎固めの時代を終った。これからの十年は、いよいよ既成の学問体系と大学制度に大きくゆさぶりをかけつつ新しい時代の要請に応える、本格的開花の第二期である。飯田館長の御健康とセミナー・ハウスの健全財政を、心からお祈りする次第である。
 (前共同セミナー委員長)

第33回 理事会
第20回 評議員会

- ① 昭和50年度事業報告・決算報告
- ② 昭和51年度事業計画・収支予算
- ③ 理事長の互選
- ④ 理事、評議員の改選
- ⑤ 評議員の委嘱
- ⑥ 顧問の推挙

昭和51年 5月21日

丸の内銀行クラブ

【出席者】

正田建次郎、中村哲、佐藤朔、勝木保次、福原満洲雄、飯田宗一郎(以上理事)、山田良之助、太田善磨(以上監事)、武田孟、赤堀四郎、森戸辰男、川原栄峰、三宅彰、小川芳男、岡茂男、児玉幸多、相良惟一、伊藤鄭爾、小谷正雄(以上評議員)。他に委任状による出席者66名。

◇

評議員会議長 中村 哲
総括報告 理事長 正田建次郎
議案説明 専務理事 飯田宗一郎
会計監査報告 監事 太田 善磨

別記の決算、予算を可決承認し、専務理事の説明により事業報告、事業計画も一括承認した。

正田理事長は、次のごとき総括報告をされた。

「昭和50年度は、開館十周年を記念し、十年史の発行、十周年の出版、大学院セミナー館の新築および多摩の民家の移築による落成式、十周年記念式典等をすべて無事に実施し、利用者も開館以来はじめて四万五千人に達し、収入、支出とも予算を超えた決算を行うことができた。」

正田建次郎氏を
理事長に再選

あらたに三理事を選出

去る3月8日開催の理事会において、茅理事により提案されていた現理事長正田建次郎氏を次期理事長として推挙することに、館長から説明があり、全員一致をもって再選した。

理事の改選については、佐藤朔、鈴木勝両理事は退任され、新たに左記三氏が選出された。
尾形典男氏(立教大学総長)
小山五郎氏(三井銀行会長)
海老沢義道氏(当ハウス事務局長)

特に、法人創立の参画者、元三井銀行会長、故佐藤喜一郎氏の後をついで、現会長小山五郎氏が理事に就任されたことは、「えにし」というべく、よき伝統を創ることであろう。

◆評議員に九十四名を委嘱

新人は村山日本育英会理事長 会員校の代表者が年ごとに増加しているが、再任または新任された評議員は次のごとくである。
会員校の代表者 四八名
財界 二二名
学識経験者 二二名

新任 二名

計 九四名

◆東海大学、東京農業大学を
協力会員校として迎える

東海大学(松前重義学長)、東京農業大学(平林忠学長)の二大学の協力会員校申込みが承認され、会員校は四十八大学となった。さらに、二校または三校から入会申込みがある予定であり、その場合は評議員会の追認をうけることとし、入会を受け入れることも承認された。

◆森戸辰男氏を
本法人顧問に推挙する

理事会は、創立以来の協力と支持に対する感謝と敬意を表し、現評議員、森戸辰男氏を顧問として推挙したいとの理事長提案を全会一致をもって賛成した。森戸辰男氏からは、顧問に推挙された感謝のご挨拶があった。



戦後最も成功した民間事業である——
顧問をうける森戸辰男氏(中央)の挨拶から

昭和50年度総括収支決算書

昭和51年度総括収支予算書

収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)	科目	金額(円)	科目	金額(円)
財産収入	570,512	(1) 一般経費		財産収入	1,150,000	人件費	65,760,000
寄付金収入	2,344,121	人件費	58,039,623	寄付金収入	1,700,000	役員報酬	(9,150,000)
会費収入	24,100,000	事務費	5,688,790	会費収入	24,200,000	俸給	(29,720,000)
協力会員校会費	24,100,000	法人諸費	1,504,737	協力会員校会費	(24,200,000)	諸手当	(18,270,000)
事業収入	70,188,585	土地建物費	7,814,957	事業収入	76,850,000	臨時備上	(2,040,000)
宿舍収入	56,844,918	事業費	36,299,372	宿舍収入	(57,440,000)	福利厚生費	(3,500,000)
施設収入	10,340,645	一般事業費	6,525,209	施設収入	(16,610,000)	旅費交通費	(840,000)
食堂収入	3,003,022	学生指導費	9,262,435	食堂収入	(2,800,000)	退職給与積立金	(2,240,000)
補助金収入	9,010,000	セミナー事業費	20,511,728	補助金収入	9,010,000	事務費	6,650,000
国庫補助金	9,010,000	計	109,347,479	国庫補助金	(9,010,000)	法人諸費	1,210,000
セミナー会費収入	3,770,200	(収支差引剰余金)	(5,178,543)	セミナー会費収入	4,150,000	土地建費	12,090,000
千人会補助収入	2,802,935	(2) 特別経費		千人会補助収入	4,090,000	事業費	36,290,000
セミナー負担金	1,712,235	固定資産減価償却費	20,255,242	学生指導セミナー負担金	(1,790,000)	一般事業費	(6,330,000)
ニュース発行費	1,090,700	什器備品除却費	199,741	ニュース発行費	(1,800,000)	学生指導セミナー事業費	(9,850,000)
雑収入	1,739,669	計	20,454,983	雑収入	(1,800,000)	普通事業費	(20,110,000)
		支出合計(1)+(2)	129,802,462	印刷費	(500,000)	予備費	1,000,000
		当期剰余金	△15,276,440	雑収入	1,850,000		
合計	114,526,022	合計	114,526,022	合計	123,000,000	合計	123,000,000

♥千人会：開館十周年記念：会員増加運動第三報：昭和51年4～5月

イマヌエル・カントの言葉に学ぶ。
「良き社会とは、それに属する人間が、それ
その義務を理解し、その義務を履行するとい
う社会である。」

第三報としてご報告させていた
だく37名の新しい会員の方々は、
申込書に、または会費の払込通知
書に入会のごころを記されている
る。その感想を伺い、なみなみ
ならぬ大学人の連帯を知ることが
できる。そこには一人称の「真の
個人」の決断による参加があるよ
うだ。連帯による個人参加の千人
会の性格が大学人の間に理解され
大学共通の広場づくりを目指す大
学セミナー・ハウスの目的がよう
やく定着したようである。十年に
およぶ地味な努力の足音が大学人
の共鳴を呼ぶのかも知れない。大
学セミナー・ハウスという小さな
大学共同社会には、カントの言葉
が現に生きている。新しい連帯が
実践されているからである。

- 理事
A 鶴見大学講師 渡辺幸俊殿
B 郡山女子大学長 関口富左殿
終身 津田塾大学長 中島文雄殿
B 東京大学教授 平野敬一殿
A 上智大学教授 河田敬義殿
A 明治大学教授 築地 整殿
A 東京大学教授 飯田修一殿
B 東京家政学院大学教授 吉永フミ殿
A アレン短期大学教授 福富啓泰殿
C 立教大学教授 近藤 晃殿
C 元当ハウス職員 村田一也殿
B 東京大学助教授 鈴木基之殿
C 東海大学講師 高橋公雄殿
C 千葉大学教授 井上勝也殿
B 東京大学助教授 正路徹也殿
B 東京工業高等専門学校校長 岡野 澄殿
C 法政大学助教授 伊藤玄三殿
B 東京都立大学教授 小林澈郎殿
A 京都大学名誉教授 平沢 興殿
C 中央大学教授 吉沢四郎殿
B 東京薬科大学教授 東地傳夫殿
C 産業能率短期大学生

- 現在会員は一、二五五名です
大学人 九九二名
社会人 二六三名
(51年5月末現在)
C 新しく会員となられた方々
(37名) [第32回報告(申込順)]
C 明治大学助教授 高木 仁殿
C 全国麻袋工業協同組合連合会
C 産業能率短期大学生
A 京都大学名誉教授 平沢 興殿
B 東京都立大学教授 小林澈郎殿
C 法政大学助教授 伊藤玄三殿
C 中央大学教授 吉沢四郎殿
B 東京薬科大学教授 東地傳夫殿
C 産業能率短期大学生
R 吳地傳夫殿

- 西田貴子殿
武田 孟殿
東京農工大学教授 川村 亮殿
千葉大学助手 金子克美殿
B 学習院大学教授 門脇卓爾殿
B 東京大学教授 米川哲夫殿
B 国際司法裁判所裁判官 小田 滋殿
筑波大学助教授 宮田 登殿
A 成城大学教授 野口武徳殿
終身 法政大学教授 中島 正殿
A 青山学院大学教授 宮部菊男殿
昭和51年4～5月(敬称略)
大原栄一、渡辺幸俊、関口富左、
檜田信男、吉永フミ、福富啓泰、
桐生富久、鮎川宗藤、小林澈郎、
浅野明子、田中美子、増合和子、
伊藤玄三、金子克美、安藤利亮、
村田和巳、小竹豊治、吳地傳夫、
長坂舜二、小島登子、野口武徳、
宮田登、寺内礼治郎、平沢薫、福
田一郎、野々口格三、林武、池原
義郎、石井千尋、石渡毅、大島太
郎、中島康孝、小泉文夫、久保田
浩、都留春夫、木村尚三郎、山内
二郎、寿里茂、金子靖、栗原俊記、
林邦夫、古川晴風、福西基、大槻
盛一、横山定雄、安藤賢一、森田
桐郎、関根隆光、井上百合子、小
川仁、豊島広司、小菅東洋、勝田
有恒、尾田幸雄、高峯一愚、村上
正夫、西山忠範、鶴川馨、長野武、
見目洋子、堤彪、倉沢進、染谷恭
次郎、二宮永蔵、塩田庄兵衛、仁
科雄一郎、江洲浩美、丸山眞男、
土田貞夫、村山松雄、館逸雄、大
原洋司、石弘光、清水昭次、中島
文雄、安芸皎一、佐伯彰一、矢野
洋四郎、杉浦明、原口隆英、村井
実、中野卓、大羽滋、狩野紀昭、
水谷松子、羽田三郎、飯吉厚夫、
竹内昭夫、佐藤弦、一柳富夫、伊
倉退蔵、山崎誠、井上宇市、神保
信一、高橋三雄、金子六郎、犬塚
博、植村甲午郎、佐藤和男、小泉
一郎、武田孟、立入広太郎、下森
定、新見宏、加藤秀俊、龍池隆、
菅野曉、橋口秀俊、吉利喜美、岩
崎英二郎、熊沢義宣、原治、阿久
津喜弘、向山文雄、中村英雄、工
藤康雄、海老根宏、羽田新、大橋
健八郎、木島康彦、荒井猷、矢沢
大二、赤撰也、後藤捨男、芳賀徹、
正田亘、内田祥哉、井草康正、大
塚久雄、松野賢吾、峰岸純夫、櫻
山欽四郎、川口弘、小原清成、中
島直忠、早川和男、藤本紘、天城
勲、梅沢文輔、手塚一朗、橋本次
郎、岡田巳代次、木原太郎、内田
市五郎、西宮輝明、慶谷淑夫、鈴
木昭、河村龍、加藤一郎、菊地昌
典、野見山不二、奥山典生、澤島
侑子、林卓男、小林提樹、馬場孝
悦、近藤正夫、目黒謙次郎、中村

昭和50年度千人会収支決算書

Table with 4 columns: 収入の部 (Income), 支出の部 (Expenditure), 金額 (Amount), 科目 (Category). Rows include 会費収入, 銀行利息, 雑収入, 事務費, 印刷費, 通信費, etc.

孝俊、今井義夫、関口忠、細谷千
博、今井栄、野間三郎、山下肇、
山之内靖、柴垣和三雄、石坂巖、
椿弘次、由良慶子、栗田見瑞、古
賀正則、鈴木二郎、安斎伸、川添
奈津子、荒井基、島内武彦、柏原
啓一、玉真秀雄、児玉昭太郎、鈴
木正紀、竹村猛、徳永勇雄、板倉
讓治、千野熊男(以上一八五名)

開館十周年記念お祝い募金——第三報

目標 三〇〇万円——累計二三四万二、〇八六円（昭和51年5月31日現在）

◆近況報告

寄付金によって講堂に映写機が、大学院セミナー館に茶器と椅子の補充が、遠来荘に茶室と庭がつくられ、利用者に便宜が提供されている。

◆

ご送金下さる用紙に書き添えられた短文は、愛情と支援の文字である。二百人を越す方々の言葉をつづれば見事な短文集ができるであろうが、ここには、次の八人のお言葉をかかげることにする。

◆1

今年からはもう主人庸三の千人会費をお届けする事が出来なくなり残念です。気持ちばかりのお祝金お送り致します。益々の御発展を祈ります。

故堀米庸三氏夫人 堀米美代

◆2

運営委員でありながら、日頃あまりお手伝いのできないお詫びも兼ねて、十周年のお祝いの微意をお送り申し上げます。

東京大学助教授 村上陽一郎

◆3

セミナー・ハウスニュースは全紙面読んでおります。御発展を願っております。

東京理科大学助教授 藤林宏一

◆4

大学セミナー・ハウスが多面的に充実されることは真に結構に存じます。甚だ僅少ですがご受納下さい。

早稲田大学教授 佐島秀夫

◆5

開館十周年おめでとうございませす。小生も大学教員として専任を専修大学に得て以来、丁度十年を経ました。この十年間貴館のめざましい発展にくらべ、小生の方ははずかしい限りです。しかし各自の進むべき道はそれぞれ一つしかないようです。しかも、どの道も必ずどこかで通い合うものでしょう。たとえば八王子の一つ丘の上などで！

専修大学助教授 一柳富夫

◆6

50年12月に一日利用させていただきました。東京にもまだこんな自然が残っているのに驚きました。飯田館長様の御健康をお祈り申し上げます。

瀨野辺小学校教諭 由良慶子

◆7

少々ですみません。第一、第二、第三のご趣旨には我がことのように

少々ですみません。第一、第二、第三のご趣旨には我がことのように

◆8

に思えて賛同の気持ちだけは誰にも負けないようなつもりですが……

主婦・元当ハウス職員 新保清子

小生は三年前にフェリス女学院大学を停年退職しましたが、以前貴ハウスに於て学生と研修をした時の豊かな思い出を忘れられませんでした。今年も新入生が利用させていただきますました。いつまでも学生の研修の場として生かされるよう祈ります。

◆8

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

元フェリス女学院大教授 堀信一

松本樺太殿 10,000円

早稲田大学教授 10,000円

三菱化成生命科学 10,000円

研究所長 江上不二夫殿 10,000円

東京教育大学助教授 10,000円

新井 明殿 10,000円

明治薬科大学教授 10,000円

鈴木友二殿 10,000円

横浜国立大学教授 10,000円

武藤義夫殿 10,000円

東京大学教授 10,000円

安藤良雄殿 10,000円

明治学院大学教授 10,000円

宮野 彬殿 10,000円

東洋大学教授 10,000円

園田義道殿 10,000円

八王子市市長 10,000円

後藤聡一殿 10,000円

東京都立大学教授 10,000円

千葉正士殿 10,000円

東京都立大学教授 10,000円

神奈川大学助教授 10,000円

田村 猷殿 10,000円

武蔵工業大学学長 10,000円

山田良之助殿 10,000円

日本国際教育協会 10,000円

理事長 小川芳男殿 10,000円

成蹊大学教授 10,000円

松尾 登殿 10,000円

東京教育大学名誉教授 10,000円

朝永振一郎殿 10,000円

学習院大学教授 10,000円

小倉芳彦殿 10,000円

東京大学教授 10,000円

向坊 隆殿 10,000円

早稲田大学教授 10,000円

染谷恭次郎殿 10,000円

早稲田大学総長 10,000円

村井資長殿 10,000円

茅誠司氏夫人 10,000円

茅伊登子殿 10,000円

理化学研究所理事 10,000円

森脇大五郎殿 10,000円

神田精養軒代表取締役 10,000円

社長 望月継治殿 10,000円

東京学芸大学教授 10,000円

三橋文雄殿 10,000円

ダン科学取締役社長 10,000円

花鳥重春殿 10,000円

東洋大学助教授 10,000円

北村嘉行殿 10,000円

東京成徳短期大学教授 10,000円

芹沢 栄殿 10,000円

横浜市立大学教授 10,000円

辻 達也殿 10,000円

早稲田大学助教授 10,000円

福山仙樹殿 10,000円

中央大学教授 10,000円

飯野利夫殿 10,000円

東京大学教授 10,000円

渡辺 仁殿 10,000円

中央協同組合学園嘱託 10,000円

野中虎雄殿 10,000円

上智大学教授 10,000円

市川邦彦殿 10,000円

東京大学助教授 10,000円

山口重克殿 10,000円

建設省建築経済研究室 10,000円

室長 早川和男殿 10,000円

東京学芸大学教授 10,000円

後藤米夫殿 10,000円

神奈川大学助教授 10,000円

加倉井茂樹殿 10,000円

青山学院大学教授 10,000円

青山学院大学教授 10,000円

青山学院大学教授 10,000円

(三)〇〇万円募金報告つき	高千穂ハロース大阪支社	10,000円	東京学芸大学教授	5,000円	中央大学教授	15,000円	獨協大学林俊一ゼミ殿
鹿島建設千葉出張所	馬場孝悦殿	3,000円	東京学芸大学教授	3,000円	浅川 淳殿	3,000円	法政大学教授
栗原俊記殿	助教授 久保内端郎殿	2,000円	日本学術会議第六部 副部長 福島要一殿	5,000円	慶応義塾大学講師 渡辺 彰殿	2,000円	東京都立多摩高等学校 教頭 渡辺忠胤殿
明石北高等学校教諭	日本歯学センター	3,000円	電気通信大学教授	5,000円	上智大学教授 佐藤 弦殿	10,000円	中央大学教授
福山直美殿	田北敏行殿	3,000円	有山正孝殿	2,000円	不動産鑑定士 河村 龍殿	10,000円	東京都立大学教授
東京大学教授	東京都立大学助教授 児玉昭太郎殿	3,000円	日本育英会理事長 村山松雄殿	2,000円	国際教育振興会理事 板橋並治殿	2,000円	東京大学教授
滋賀秀三殿	武蔵工業大学助教授 木村富夫殿	3,000円	東京理科大学教授 小原清成殿	2,000円	専修大学助教授 竹村憲一郎殿	3,000円	東洋大学助教授
東京都立川短期大学 教授 吉田幸弘殿	東京大学教授 乾 崇夫殿	5,000円	日本学術会議副会長 伏見康治殿	5,000円	立教大学教授 立入広太郎殿	10,000円	日本大学名誉教授
小西六写真工業殿	慶応義塾大学名誉教授 佐原六郎殿	5,000円	石川吉右衛門殿	5,000円	慶応義塾大学教授 村井 実殿	10,000円	成蹊大学教授
津田塾大学教授	村井孝子殿	3,000円	東京大学教授 加藤五六殿	5,000円	明治大学教授 宮崎繁樹殿	5,000円	工学院大学助教授
慶応義塾大学名誉教授 佐原六郎殿	成蹊大学教授 増地昭男殿	3,000円	明治大学理事長 仲野電機製作所取締役 社長 千野熊男殿	3,000円	玉川大学教授 満尾寿男殿	5,000円	日本大学教授
武蔵大学教授	横山定雄殿	3,000円	専修大学助教授 塚本利明殿	3,000円	お茶の水女子大学 助教授 澤島侑子殿	3,000円	武蔵工業大学教授
東北電力相談役	内ヶ崎贊五郎殿	10,000円	津田塾大学学長 中島文雄殿	3,000円	明治学院大学講師 笠井貴征殿	2,000円	学習院大学教授
三友建設代表取締役	外池孝雄殿	3,000円	東洋大学教授 大村晴雄殿	3,000円	十文字学園女子短期大学 教授 岡村 勝殿	10,000円	計測自動制御学会 早稲田大学教授
明治大学教授	山本大二郎殿	10,000円	学習院大学教授 清永昭次殿	2,110円	日本看護協会 順天堂大学職員 石塚司農夫殿	3,000円	東京都立白鷗高等学校 教諭 岡崎 正殿
専修大学学長	相馬勝夫殿	3,000円	東京大学名誉教授 松田智雄殿	5,000円	専修大学教授 石田武雄殿	10,000円	当ハウス事務局長
野村不動産監事	柴田恭二殿	5,000円	法政大学教授 平野鉄太郎殿	2,000円	順天堂大学教授 関根隆光殿	3,000円	産業能率短期大学学生
主婦・元当ハウス職員	新保清子殿	5,000円	電気通信大学専任講師 狩野紀昭殿	5,000円	立教大学教授 三宅義夫殿	5,000円	新生活運動協会殿
青山学院大学助教授	岸 英朗殿	3,000円	東京都立大学教授 大羽 滋殿	3,000円	東京医科大学教授 竹下敬次殿		
東京大学助教授	川端香男里殿	3,000円	東京教育大学教授 中野 卓殿	3,000円			
上智大学教授	小穴 純殿	10,000円					

第83回大学共同セミナー

主題—日本土着思想の原点

期日—昭和51年5月28、30日

△全体講義▽

移動民の社会と定着民の社会

成城大学教授 野口武徳氏

△ゲスト講演▽

日本の憑きもの

東京大学教授 吉田慎吾氏

△セクション演習▽

A 「常民」の思想・「非常民」の思想—日本学事始—

東京学芸大学助教授

宮田 登氏

B シャーマニズムの世界—シャーマンと民衆—

駒沢大学教授 佐々木宏幹氏

C 日本における婚姻の民俗と土

着思想

明治大学教授 江守五夫氏

D 南島の死生観

評論家 谷川健一氏

E 着る・食べる・飲む・住む

成城大学教授 野口武徳氏

(運営委員)

△参加学生▽106名(内女子40名)

早大(18)、慶大(8)、東外大(6)、筑波大、都立大、東女大、ICU、成城大(各5)、東大、津田塾大、中大(各4)、明大、成蹊大、独協大、国学院大、駒沢大(各3)、東京学芸大、東工大、法大、立大、武蔵大、跡見学園女子大(各2)、一橋大、お茶の水女大、電通大、群馬大、上智大、専修大、東洋大、武蔵工大、明学大、駒沢短大(各1)。合計32校



遠来往でセクション演習(左端は野口武徳先生)

切り拓いて行くべきかを考えようとするのが、このセミナーの目的である。

折りからの「民俗学ブーム」によってか、予定人員を上廻る約一二〇名の応募者があり、学生の関心の大きさを改めて知らされたが、一方には、民俗学の学科を有する大学が非常に限られているという現状があり、この共同セミナーの持つ意義は極めて大きかったとみるべきであろう。

ゲスト講演及びセクション指導には、別記のように民俗学の各領域の第一線で活躍しておられる先生方をお迎えできたことは、まことに幸せであった。プログラムはまず野口先生の全体講義で開始され、この中で、定着民すなわち農耕民の文化によって築き上げられたと考えられている日本人の価値観とは何かが、採集・狩猟を生業とした移動民の生活を探ることによって明らかにされた。夕食後、「冬の夜の神々の宴」「神屋原の馬—沖繩久高島イザイホーの記録」と題する二本の映画が上映され、後者については自ら演出・制作された北川皆雄氏が解説を加えられた。参加者は、今なお存続する祭りの習俗・儀式の記録に強い印象を受け、「感動的だった、興味深かった」という感想が多く聞かれた。また二日目のゲスト講演では、吉田先生は、日本の憑きもの現象を諸民族と比較することによってその特質を浮き彫りにさ

れ、日本の文化との関連について言及された。

最終日の全体集会では共通テーマとして「夜這い」の風習が取り上げられ、間引きと子殺しとの共通点、相違点をからませながら、現代社会の婚姻習俗をめぐって全体の討論が行われた。夜這いをどのように現代に継承させていくかという点で、大人の責任において男女が呼び合う場が提供されなければならぬ、その意味でセミナー・ハウスは一つの新しい交際の場であるという飯田館長の飛び入り発言もあって、学生の拍手をあげた。

今回は新入生歓迎セミナーとして企画されたこともあって、二三名の新入生の参加があったが、別掲の感想文からもうかがえるように、先生方の熱意あるご指導によって、このセミナーは学問をする姿勢を学び、大学におけるセミナーとは何かを知る上の絶好の機会となったようである。

●これからの大学生活の起爆剤

横田 啓子

緊張した空気。教授と学生との間でからみあう真剣なまなざし。夜を徹して続く熱っぽい議論。そして豊かな人間関係。大学共同セミナーには、私が期待していた以上のものが、無数にあった。

私は、高校時代にこの大学セミナー・ハウスの存在を、ある新聞の記事を通して知った。私の記憶

は定かではないが、大学紛争時に、このセミナー・ハウスで寺小屋形式による自主ゼミが行われているという主旨であったと思う。この記事が妙に鮮烈に頭の中に残っていて、「大学生になったら、絶対この大学セミナー・ハウスにぞ」ときめていた。

二泊三日は短かった。しかし、充実した時がそこにはあった。受験勉強は人間を孤立化する。周囲の人間など、もはや風景同然であった高校から考えると(マンモス大学もそうであるらしい)この共同セミナーで体験した人間関係は、私にとって、ひどく新鮮なものであった。強烈な個性をもつ個人同士が議論することは、すこぶる楽しいものである。私は受身で聴いている場合が多かったのだが、グループで一つの問題を追求していった時の感動は今も深く胸に残っている。そして、それが私の場合、これからの大学生活の起爆剤となり、原動力になっていきそうな気がする。また、演習等を通して、自分の無知さを知らしめられた。学問に対する取り組み方も、まだまだ軽薄である。学問的なことばかりでなく、人間性においても、いかに自分が未熟であるかを知った。まだ「学問」というには、おそれ多く、山のふもとに立って、目に見えない頂上をふり仰いだばかりの私である。しかし、この共同セミナーで得たものを、

これからの生活の契機として発展させていきたいと燃えている。大学セミナー・ハウスの存在の意義は大きい。学問において、そして、人間の交流において、セミナー・ハウスの果たす役割は、参画すればするほど重く感じられてくるだろう。特に理系と文系の学生が共通の問題に取り組むこと

(津田塾大学国際関係学科一年)

は、日本の大学では想像し難く、非常に貴重なものであると思う。「四年後には、またこの同じ新

入生の顔ぶれがそろう、卒業してくれることを願う」といわれた館長の言葉を忘れることなく、セミナー・ハウスと共に、成長していきたいと思う。

今回の共同セミナーは新緑が眩しい多摩の丘で一〇〇余名の大学生を集めて、すこぶる生き生きと行われた。

マニズム論を展開したという。あの女子学生は「皆異常に燃えてシャーマンになっていた」と感想を述べた。

プログラムの編成にあたった野口武徳氏から、「シャーマニズムの世界」というセッションを担当するよう依頼されたとき、私はしばし戸惑いを感じた。専攻も関心も異なるはずの青年たちが、この特殊なテーマに三日間も付き合

が可能な人物(シャーマン)を中心とする宗教現象である。神と交流するときのシャーマンは内面が燃えて異常心理になり、天空を飛

シャーマニズムと

青年たち



駒沢大学教授 佐々木宏幹

しまった。二一名(男一四、女七)の諸君は終始真摯な態度を崩さず、二日目には延べ七時間半にわたる講義にまだ時間が足りないという不平をもらし、鋭い質問をだし続けた。

二日目の夜にはお互いの心気が十分に知り合えたからでもあろうか、講義後一滴のアルコールもなしに早朝近くまでシャ

翔し、神を吾が身に憑け、予言、託宣、治病を行い、現状批判をする。この状態を学者はトランスとかエクスタシーと呼ぶ。それは、平常は時間、空間、制度、組織、慣習などに制約されている人間が、その枠や束縛を脱して自己を無限に羽ばたかせることを意味する。シャーマンは個人が不幸のど

●真の友情が生まれる可能性

竹本善次

新入生を歓迎してと銘打たれた今回のセミナーは、新入生である私にとって格好のテーマであった。一体、日本の真の姿とは何か。日本人の真の民俗性とは何か。これは常日頃私がいただいていた疑問

ん底にあるときや社会が規範・秩序喪失の状態に陥った際に突如として出現することが多い。シャーマニズムはこのように個人の宗教的再生や社会秩序の宗教的再編成に結びついているのである。トランスやエクスタシー状態になるには大きなエネルギーが必要である。シャーマン的人物の中には、若い頃は神がかり(トランスになること)したが、年老えるにつれてできなくなると述懐する者が多い。それは若さにつながる宗教形態であるといえよう。青春の夢とエネルギーをシャーマニ

ズムは原初的な仕方において実現させ発現させる。八王子の山でシャーマン的に自我を解放し合った青年たちは、再び原初の経験に帰るべく、七月初旬に勢揃いする計画をもっているという。

(Bセクション指導教授)

であった。

私の参加したセッションは、「日本のシャーマニズム」というテーマで佐々木宏幹先生をお迎えして、21名の学生が集った。私のような全くの初学者から民俗学専攻の大学院生まで各人のレベルは様々であり、各人各様の問題意識を持っておりその各人の問題意識にどう答えたらよいか、先生も苦勞なさったようである。最後の時間にはスライドでインドや沖縄の珍しい写真を見せてもらい、シャーマンが私にとって真に真実味のある存在となった。

各先生の個性豊かな性格にじかに触れたことは、学生に新鮮な印象を与え、その学問は学生の知的興味をよびおこし学問的刺激を確実に与えた。学生各人はその刺激を単に刺激に終わらせず、自己の学問の核としていくことが肝要であろう。それにしても真に学びたい者だけが集った青年の集団は何と気持ちのよいものだろう。主体的に学ぶという一点で学生はつながっており、そこにこそ真の友情がうまれる可能性があるのではないか。またセミナー最後の送別屋食会では、各先生の意外な側面を見せられ(聞かされ)、難しい論文を書く学者が必ずしも難しい頭を持った人ばかりでないことを理解した。

今回のセミナーは、私にとってひじょうに有意義であったと同時に自己の知的未熟さ、人間的未熟

さを痛感させられた機会でもあった。卒業まで何度もこのセミナー・ハウスを利用することになる期待に応えるべく、四年後にはりっぱに人間的成長を遂げたあとで会えることができるよう、努力したいと思う。(津田塾大学政治学科一年)

▼寄贈図書

50年11~12月

- 「アジアは生きている―人と祭り―」「アジアの昔話2」
- エネスコ・アジア文化センター殿
- 「歴史と未来」第三号
- 東京外語大中嶋ゼミの会殿
- 「性―思想・制度・法」高須裕三殿
- 「人物を中心とした教育郷土史」山田耕司殿
- 「句集ヒグラシの歌」小林歩三殿
- 「心をささえる51章」「ヘレンおぼさんの人生案内」深尾凱子殿
- 「日本人―その構造分析」「日本人はどう変わったか」「職場青年の心理学」「日本人と教育」「県民性」祖父江孝男殿
- 「婦人論のイデオロギー」「ヒューマニズムと女性」啓隆閣殿
- 「国際交流7」国際交流基金殿
- 「SOKEN」No. 1~5 関西学院大学総合教育研究室殿
- 「財務諸表通論」染谷恭次郎殿
- 「一橋大学附属図書館史」一橋大学殿
- 「政治経済史学」一一四―一一五 政治経済史学会殿
- 「佐渡叢書」第7巻 松井源吾殿

●業務通信

既報のとおり、電気代、重油、洗濯代などの相次ぐ値上げの中で、利用料金の値上げを見合せてきた当ハウスも、経営上止むなく4月より料金改訂を実施しました。この点で心苦しい新年度の幕あけとなりましたが、4月、5月の実績は長期にわたる国鉄ストにもかわらず、ゼミ回数、利用者数とも前年度を上廻るほどで、これは皆様の理解あるご協力のお蔭と感謝しております。

◇ 4月には福島大学経済学部ゼミの五名が来館した。同ゼミの指導者は、大学院時代に共同セミナーに参加するなど、当ハウスをよく利用した星野瑛二氏であった。また、新人講習で四泊した構造計画研究所の一人に、「どなたの紹介ですか」と尋ねると、「私が大学のゼミでよくことを利用させてもらいましたから」ということであつた。こうして利用者の範囲が広がって行くのである。

◆週末の利用を希望される方にて10月以降も週末はかならずお早目にご予約申込みは、お早目にご予約申込み

は、セミナーのゴールデン・ウィークでもあつた。二四グループ、延べ一、一五〇名の利用者でにぎわつた。

▼十年目の衣更え

—整備計画すすむ—
十年の歳月を経過して、建物の内部・外部に破損が目立つようになりつた。今年度に入つて早々に、次の補修工事が着手されています。

丘の上のシェイクスピア

学習院大学英米文学科三年 田中真

多摩の丘に春がやってきた。深呼吸すると朝の空気が心地良い。さあ、発声練習だ——僕らの大きな声で、合宿の一日が明ける。

僕達は、学習院大学英米文学科シェイクスピア劇研究会、シェイクスピアの芝居に魅せられた者の集まり。

二年前、その頃まだ学生だった荒井良雄先生（現学習院大学教授）を始めとする人達が学園祭で「The Comedy of Errors」を上演されたのを契機に、毎年一本の割合で原語上演を続け、今では、学科に所属する研究団体として認められ、その公演は、年中行事の一つに数えられるようになった。

僕達と大学セミナー・ハウスのお付き合いは、もう長いことに

(1)セミナー室、ユニットハウスの雨漏補修
(2)ゲストルーム洗面所の天井・壁面塗装
(3)教師館の外部塗装
(4)長期研修館の外部壁面雨漏補修・塗装

また、開館に先がけてオリンピックの払い下げを受けた調度品の中で、とりわけ破損の激しい次の二カ所の椅子の新調・張替が行われました。

(1)本館ラウンジ及びビロビーのソファの新調
(2)中央セミナー館の椅子の張替
一方、本館前の斜面には、つづじ二百本、山吹、雪柳、あじさい各百本の苗木が植えられ、一昨年のがけ崩れの現場はすっかり面目を一新しました。来年にはこの苗木が育つて美しい花を咲かせてくれるでしょう。また一つ、景勝の場がこの丘にふえることになりました。(5頁の写真参照)

▼就任に際して

事務局長 海老沢義道

風かおる新緑のエルムの街、札幌から招かれて6月1日着任いたしました。日本の大学教育の中で輝かしい十年の歴史をつくつた大セミナー・ハウスに重責を与えられた光栄に、感動を憶えると共に、役員、職員、会員、校関係諸氏、千人会会員諸氏のご指導ご協力を心からお願ひする次第です。私はYMCA人として国際交流、社会教育、青少年運動に長年たずさわってきた者です。従つてある面ではこの新しい任務は類似性をもつと同時に、全く新しい経験でもありますから、今後はこのセミナー・ハウスを受する人びとの協力を仰ぎながら、責任を全うしたいものと念願ひしています。何はともあれ、私の人生に於て、飯田館長との出合いは終身雇用制の日本の風習を打ち破つて、セミナー・ハウスに挺身する動機

となつたのであり、いささか抱負をも持つて着任した次第です。かつて私が米国滞在中、一人の社会心理学者がリーダーシップ育成の会で、次のような表現を用い、強い感銘を与えられたので紹介したいと思います。

“Spontaneous Creativity: The rough Person-to-Person Contact in the ‘Face-to-Face Situation’ (顔と顔を合わせた状況の中で、人格と人格とが触発するところに自然発生的に創り出されるもの)。

これは、小は数人のグループから、大は国際社会に至るまで、あらゆる人間集団が、真の意味でのコミュニケーションたりうるか否かの基本的重要性をもつものであり、しかも知性をもち、真理を愛する人びとのパーソナル・インター・アクションを創るセミナー・ハウスが、創造するものの如何に大きいか、私はそれに参加する喜びに満たされています。

これからしばしばお目にかかりますが、取りあえず一言のご挨拶を申し上げます。(常務理事)

▼事務局・企画室の新陣容

- 事務局長兼企画室長 海老沢義道
- 事務局次長兼会計課長 藤永 鉄雄
- 庶務課長 北沢 高純
- 業務課長 綿引 二郎
- 企画室主事 飯田 能子

(ハムレット公演)は5月28・29日に新宿厚生年金ホールで行われ、成功裏に終了した模様です。——編集者記

◎館長日記から——向暑の砌、ご健勝を祈り上げます

◆80ページの昭和50年度年報を刊行した。この年報は開館十周年に当たる50年度をどのように過したかを後世に伝える貴重な記録である。十年の歴史をどのように祝いのように意義づけたいかを支持者と協力者にお知らせする報告書でもある。最良の読者は千人会の皆様であったらしい。◆正田建次郎先生が再び理事長にご就任下さった。最良の友茅誠司先生がその重任を強く要望され、理事会また挙って賛成された結果である。館長の幸せこれにまさるものはない。◆5月初旬、これから春に入ろうとする北海道に三日の旅をした。主たる用向きは、北海道Y M C A 会員総会に出席し、総主事海老沢義道君を当法人の事務局長に招聘するに当たっての挨拶を述べたためであった。たまたま北大の事務局長が篠沢公平氏なので、当法人創立当時文部省の会計課副長として、その後は東大経理部長として、会員校会費のことで大変お世話をして下さった縁故を回顧し、北大キャンパスを表敬訪問した。北大は創立百年を祝う準備体制の真只中であつたから、篠沢局長から明日の北大のヴィジョンをきくことができた。交歓と交誼の半日であつた。◆本号は4・5月号なので、6月13日に催した遠来荘の茶会についてご報告できないのが残念である。遠来の客を茶席に迎

えて、なごやかな光景をつくり出した。十年前に誰れがこのように風流人の集う民家が建つことを予想したであらうか。茶室の諸道具をご寄贈下さった新宿一色茶器店、山内恭彦、加藤六美両先生のご好意を特筆して感謝したい。詳しくは次号で。◆「あの先生はセミナー・ハウスの山内さんでしゅうか」と手塚富雄先生が遠くから指された老紳士は、よく似ておられたが、その人ではなかつた。6月23日江藤淳氏の芸術院賞を祝うパーティで話である。まさしく山内先生は「セミナー・ハウスの先生」である。年間利用者ベストテンに入る諸先生もまた「セミナー・ハウスの先生」なのである。手塚先生は、言葉を選んだわけでもなく、さりげなく「セミナー・ハウスの先生」と呼んだが、意を尽して妙である。◆オスカール・ワイルド協会長の明治大学教授西村孝次先生は、すばらしい学者である。学会セミナーで宿泊された翌朝に、私は朝食のテーブルで顔を合わせた。先生は「昨夜はセミナー全部読みました。設立の目的、関係された人々、寄付者、十年の歴史がよくわかりました」といわれたのには大いに驚いた。自ら調べたのにはない。若い人が、やたらに質問することに比べて、その感を深くした。

●利用状況

* 11 同月2回利用
* 12 同月3回利用

◇4月

4月11、12、16、19、22、26、29、30日
5月11、14、19、20日

明治大学教授	喜多 登	成蹊大学助教授	福田 喜三	専修大学教授	萩原 稔
青山学院大学教授	坂井 正廣	法政大学講師	公文 溥	立教大学教授	川鍋 正敏
成蹊大学助教授	木村 久男	東京大学助教授	* 見田 宗介	中央大学助教授	矢部 浩祥
専修大学助教授	竹林 代嘉	明治大学教授	設楽 重昭	法政大学助教授	矢田 俊文
明治大学助手	宮崎 繁樹	神奈川大学助教授	小林 正雄	津田塾大学教授	細井 勉
中央大学助手	丸山 秀平	武蔵大学教授	* 佐藤 進	独協大学助教授	横山 定雄
早稲田大学助教授	鮎川 登	中央大学教授	* 石原 忠男	大東文化大学助教授	鈴木 順子
東洋大学テレビ放送研究会	齋藤 秋男	津田塾大学教授	長沼 秀世	国際商科大学英語研究会*	
東京大学講師	佐藤 康男	一橋大学カトリック研究会	緑川 敬	立正大学教授	
法政大学講師	西川 俊作	早稲田大学講師	榎田 信男	流通経済大学助教授	十合 暁
慶応義塾大学教授	高木 仁	横浜国立大学助教授	関口 隆	フェリス学院大学新入生オリエンテーション	
明治大学講師	高木 仁	上智大学助教授	粕谷 友介	横浜市立大学自主医ゼミ	
学習院大学シニエックスピア劇研究会	関田 寛雄	東京大学助教授	石井 進	東海大学助教授	藤家禮之助
青山学院大学助教授	村越 邦男	法政大学教授	吉永 フミ	東海大学医療技術短期大学教授	内田 靖子
中央大学講師	白井 常	横浜国立大学教授	土方 保	福島大学助教授	星野 珉二
東京女子大学講師	松田 正一	中央大学助教授	大崎平八郎	東京都立工科短期大学助教授	
早稲田大学教授	神保 信一	東京教育大学助教授	村山 元英	東京都立商科短期大学教授	斎藤 芳郎
明治学院大学教授	高森 寛	東京都立大学助教授	吉本 市	青山学院女子短期大学教授	北條 恒一
青山学院大学助教授	千葉 修司	法政大学助教授	渡辺 良雄	東海大学教授	斎藤 謙
津田塾大学助教授	徳谷 昌勇	法政工業大学工学部建築学科	菅原 義信	産業能率短期大学助教授	師岡 孝次
成蹊大学助教授	澤木 敬郎	法政大学助教授	石原 明	世界連邦建設同盟青年学生部	清田 進
立教大学教授	南部 鶴彦	東京大学助教授	鈴木 基之	中央協同組合学園	
武蔵大学助教授	手塚 泰彦	法政大学陸水学自主ゼミ	石樽 顕吉	日本国際学生協会	
東京都立大学助教授	大東百合子	明治大学教授	内田 章五	松本享英語教育研究会	
津田塾大学教授	湯原 剛	学習院大学教授	小倉 芳彦	東京保育研究会第九ブロック	
中央大学講師	永安 幸正	工学院大学助教授	須田精二郎	山本産業東京支店	
早稲田大学助教授		神奈川大学助教授	丹下 敏	日本水産八王子総合工場	
		東京外国語大学ベトナム古代史研究会		アスター精機	
		研究会		ゼノア	
		東京都立大学助教授	井上 正晴	構造計画研究所新人講習	

小西六写真工業八王子工場*

東京学芸大学教授 三橋 達雄

東京大学法学部自主ゼミ

大月市立大月短期大学講師 矢田 博

村越 洋子

編集後記

慶応義塾大学学生 松本三和夫
青山学院大学助教授 岸 英朗
学習院大学講師 島川聖一郎
小岩キリスト教会 大久保康雄
工学院大学助教授 今井 義夫
中央大学学生 山内 功
日本水産八王子工場 朝川 守

◇5月

慶応義塾大学教授 和田木松太郎
中央大学新報編集委員会
学習院大学シェイクスピア劇研究会*
早稲田大学講師 田村 正勝
日本大学教授 北野 弘久
芝浦工業大学教授 松縄 勉
東京大学助教授 森田 桐郎
学習院大学助教授 江沢 洋
法政大学助教授 伊藤 玄三
東京学芸大学助教授 井上 尚美
中央大学助教授 矢部 浩祥
東京大学助教授 西田 美昭

武蔵工業大学教授 廣瀬 鎌二
東京大学助教授 松本 恒之
東洋大学教授 市川 弘勝
千葉商科大学教授 小竹 豊治
東京農工大学教授 金子 六郎
武蔵大学教授 村田 晴夫
慶応義塾大学教授 小茂鳥和生
東洋大学茶道研究会
法政大学教授 中林賢二郎
立教大学講師 小林 晃
東京経済大学教授 富塚文太郎
工学院大学助教授 長坂 舜二
中央大学助教授 井上 良二

早稲田大学助教授 寄本 勝美
神奈川大学助教授 重田 晴生
東京理科大学助教授 増田 勇三
明治大学文学部ゼミナール協議会
日本女子大学教授 根岸 愛子
慶応義塾大学中国語学習会 松本 武子
芝浦工業大学教授 高橋 清
日本女子大学教授 松尾 均

波多江健郎
磯部 力
伊藤 玄三
天達 忠雄
大久保謙二郎
早稲田大学助教授* 島田 征夫
東京学芸大学教授 新福 敬二
東京学芸大学助教授 飯田 秀一
日本大学助手 長谷川清之
立教大学教授 久保田 順
産業能率短期大学助教授 佐野雄一郎
女子聖学院短期大学講師 小倉 義明
東京都立商科短期大学教授 玉井 康雄
玉川大学助教授 西谷さやか
東京都立立川短期大学教授 酒井 豊子
東京都立雪谷高等学校笹友会 森 陽
文京女子短期大学* 武田 修一
東京都立工科短期大学教授 修一

年度始めは年報の編集に忙殺されましたが、5月下旬に完了してほっとしました。千人会員、役員、共同セミナー委員などの関係の深い方々にお送りしましたが、まだ余分がありますので、ご入用の向きはお申し出下さい。
木村尚三郎先生から、歴史学者としての所感をお寄せいただき、巻頭を飾ることができました。共同セミナー委員長の重責を完うされた先生のご経験に基づいた見識は、次の十年を導く指針となります。ここに厚く御礼申し上げます。

日に練り広げられている教育活動の全容をお知らせするために紙面をとってしまい、寄贈図書のご報告が大変遅れております。編集の不手際をお詫びいたします。(能)

歴史と文明の探求(上)

「文明問題懇談会」討議の全記録

内容 科学技術と人間へ報告 都留重人 井深大 自然と芸術
報告 山本健吉 梅棹忠夫 歴史と日本人へ報告 市井三郎
ドアー キーン 宗教と民族へ報告 貝塚茂樹 中村元 アジア
と日本へ報告 戴国輝 アナンタン 中根千枝
世界文明の深刻な状況の中で、独特な古い文化を維持しつつ急激な近代化を達成した日本文明の現況を当代の代表的知識人が多角的に検討する。
歴史と文明の探求(上) 9月上旬刊行予定

桑原武夫
中根千枝編
加藤秀俊

950円

空間の社会学

中公叢書

加藤秀俊著

人類は地球とそれをとりまく空間といかにかがわり、いかなる文化を創り上げてきたか。人類の世界への知覚のありとをたどり、生活文化の面から空間を考え、天空のシンボリズムに説きおよぶ——人類文化と空間の構造を追求するユニークな文明論。

1000円

歴史と国家

中公叢書

永井道雄著

近代国家として誕生してから、イギリスはすでに三世紀にわたる風雪に耐えた。日本は百年の歴史があるにすぎないが、世界史の転換期に直面しているに困難をのり切るか。ここに永年のイギリス保守主義研究の成果を集め、現代日本の課題にこたえる。

850円

中央公論社

東京・京橋2-1 振替東京 2-34